

今週の

いきもの広場

1 ナミテントウの幼虫



さなぎの姿

アブラムシ(矢印)を食べるため農業においては益虫として知られています。この後、さなぎ(右)を経て、成虫になります。

2 クルミマルハバチの幼虫



クルミが食草で、葉の裏を探すと見つかります。背中にはひらひらとした白い蠟状の物質をまとっています。



3 コナライクビ チョッキリの揺籃

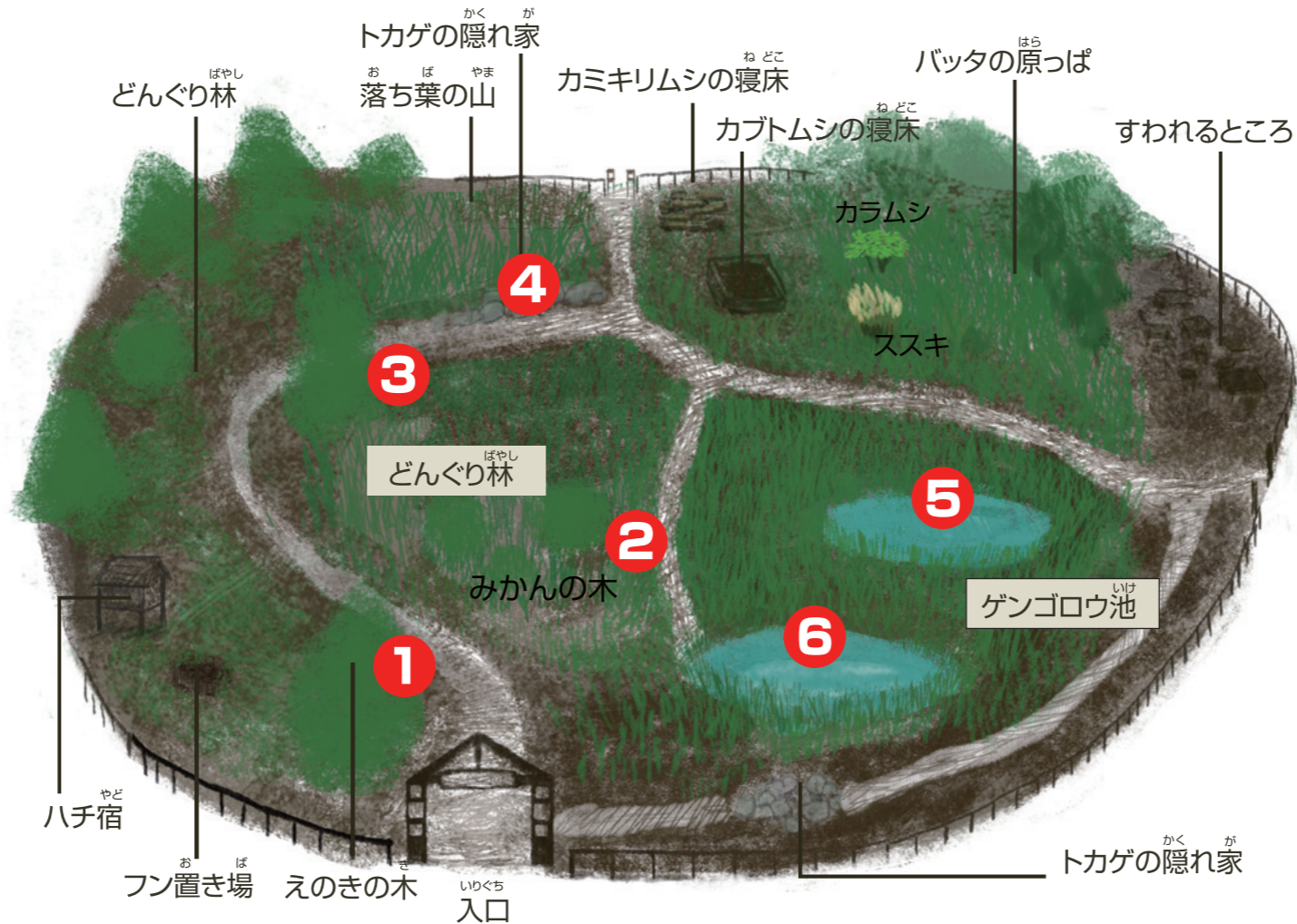
イクビチョッキリがクヌギの葉に切れ目を入れ、巻いて作った揺籃(おとしぶみ)です。内側の葉には卵がひとつ産みつけられています。

4 アシベニカギバの幼虫



ガマズミの葉が食草です。カギバの仲間の幼虫は尾の部分にしっぽのような長い突起(矢印)を持っています。

いきもの広場は、動物園の中に作った「近所の自然」です。広場のなかには様々な環境や生き物と出会うための小さな仕掛けがたくさんあります。5月に入り、あたたかな日差しの下、いきものたちの活発な姿が見られるようになりました。



6 クロスジギンヤンマのメス



春先に羽化したギンヤンマが成熟し、繁殖のために水辺に姿を見せるようになりました。写真は、昨年同じ池で産卵をしていたメスです。

5 アズマヒキガエル



3月23日に池で卵が見つかり、4月7日にはオタマジャクシがふ化しました。現在は、上陸した個体が池の周りで見られます。



活動日以外は池を網でおおっています
広場の池の上陸したばかりのカエルは、そのままと野生のカモに食べられてしまいます。しばらくは、活動時間以外は網でおおっています。